

教育目標	1 進取の気性に富み、豊かな心と健やかな身体を持った人間を育成する。
	2 真理を深く追求し、豊かな創造力と力強い実践力を持った人間を育成する。
	3 国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともに、その将来を担う人間を育成する。
重点目標	① 全校登山やアジアアフリカ難民支援運動など岳陽の学びの4本柱を通じて、主体的に生きる生徒を育てる。
	② 基礎学力の向上を図るとともに、様々な進路選択に対応する学びを保証する。
	③ 多様な他者を受け入れ、互いを尊重する豊かな心を育み、いじめのない安心安全な学校をつくる。

			具体的目標	分掌	達成状況	達成度	課題・改善策	評価
教育活動	学習指導・進路指導	重点目標①	日々の学習を含め、土曜補習や模試などに主体的に取り組む姿勢を支援し、自らの進路実現に向けて適切な情報を提供する。	進路指導 学習指導	土曜補習、夏季補習など計画的に実施した。特に、補習と部活動の時間をはっきりさせた。12月からの特編授業は、生徒のニーズに極力応えることができるよう編成に努めた。	B	積極的に参加している生徒は自覚をもって主体的に参加している。土曜補習は意欲的な生徒もいる反面、生徒の参加率が下がる傾向にあり、補習の必要性について研究する必要がある。	A
			進路探究や自主性、社会性を養う集団での体験的な学習に対する取り組みを支援する。	2学年	研修旅行では、大学見学等を通して進路への意識を高めることができた。また、クラスの団結も高まり、良い研修になった。	A	訪問大学を調べたりと、事前学習の時間を確保する必要がある。	
			英語スピーチコンテストを通して、相手にわかりやすく効果的に伝わるよう、自分の考えを表現する能力を身につけられるよう支援する。	英語科	時間をかけて自分の伝えたい事を文章にすることや、ALTの添削を受けて、より伝わる英語表現を学ぶことができた。	A	生徒が英語表現を考える機会として十分有効に働いていると考える。ただし、評価を行うにはルーブリックの整理等、今後の研究の必要がある。	
			海外留学生との交流を通し、国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解する。	教務	昨年度に引き続き、シンガポールの高校生20名が5月に来校し、生徒会を中心に交流を行った。	A	交流が一部の生徒と限定的に行っており、クラス、学年、学校と交流の範囲の拡大を検討する。	
			故郷の山に登り、故郷の山を知ることなどで故郷を愛する心を育む。また友と助け合い励まし合いながら山に登ることで、仲間意識を高める。	登山委員会	雨天のため計画変更した隊もあったが、1泊の隊は概ね予定通り実施することができた。	A	雨天時の行動判断など安全管理の検証を行い、来年度以降に活かしていきたい。	
			アジアアフリカ難民支援運動を通して、地域の課題や国際的な課題について考える支援をする。	各学年	意欲的に取り組み、意義ある活動になった。講演会を通じて国際的な視野を広げることができ、支援の理解を深めた。	A	事前事後の学習をさらに深めることができると良い。活動における安全性を確保する。	
			探究活動を通した主体的な学びによって、実社会への関心を深める機会を支援する。	学習指導	日々の探究活動や1・2学年合同で行われる報告会は、生徒相互に刺激を与え合いながら、社会や自然などの諸事象に対する興味関心を高める場として有意義である。	B	現在のような探究活動の運営となつて3年が経過し、探究活動の流れは定着しつつある。内容の質的向上を図っていきたい。	
	重点目標②		校内の情報センターとして、教科横断的・協働的に展開される生徒の学習支援をする。	図書館	1学年生徒に対し図書館オリエンテーションと探究の資料の取り扱いについてガイダンスを行った。また、進路学習や教科の学習として新聞を活用する生徒も見られた。探究やその他さまざまな教科の授業においても、図書館資料を活用している姿が多く見られた。また、情報発信の場として図書館のグーグルクラスルームを開設した。	A	探究やその他教科の授業でより多くの生徒が図書館を利用し、書籍を活用できるようにしたい。そのために、どのような資料が必要かヒアリングをして資料の準備をしたり、図書館を利用してもらえるよう促していきたい。	B
			思考力・判断力・表現力を育てるために主体的・対話的な学習活動の研究、推進をする。	各教科	ペアワークやグループワークを通し、生徒一人ひとりが主体的に取り組めるよう支援した。また、ICT端末を用いて、復習や発表をする機会を設け、学習内容の理解を深め、自分の考えを伝える機会を作った。	B	授業と家庭学習の連携は十分とは言えず、家庭学習につながる課題を研究する必要がある。また、生徒同士の人間関係への配慮、授業の雰囲気作りの工夫が必要である。	
			生徒一人ひとりが社会との関わりを意識した進路目標を設定し、その実現に向けた取り組みを支援する。	各教科 各学年	進路学習や面談を通して、生徒個々の進路目標の設定・実現に対して適切な助言ができた。また、進路目標が明確ではない生徒に対しても、教科を学ぶのではなく、教科を通して学ぶことを大切に授業展開した。	B	新教育課程や入試への対応や多様化した進路にいかに対応していくかが課題である。教科指導を通して生徒一人ひとりの進路実現へ向けた取り組みが必要である。	

			具体的目標	分掌	達成状況	達成度	課題・改善策	評価
教育活動	学習指導・進路指導	重点目標②	ICT機器を利用した進路情報の提供を心掛け、進路に関するデータの分析や集計に有効に利用する	進路指導 学習指導	各学年のGoogle classroomに所属して、様々な進路情報を配信した。特に、3年生には予備校からの情報も配信した。	B	情報の提供については、classroomのみならず、紙ベースでの配布など多様なツールを用いることを心掛ける。	
			探究的な学習を通じて主体的に取り組む姿勢を養い、自らの進路実現に役立てる		総合型や学校推薦型など年内入試が増加傾向にあるなか、探究学習を有効に利用して受験する生徒も多少いたが現状では限定的である。	B	探究学習と進路を連携させるには、綿密な準備が必要と考える。1学年普通科のリフレクティブラーニングで行われたライフプランやキャリア研究等は、主体的な進路選択を促す意味で注目すべき実践である。	
教育活動	生徒会活動	重点目標③	学校行事を通して、他者と主体的、協働的に学ぶ姿勢を育む。	各学年	文化祭やクラスマッチなど各行事を通して概ね達成できた。	A	少数ではあるが、活動に参加できない生徒への対応は課題である。	B
			クラブ、委員会、文化祭活動を通して、他者への理解を深め、主体的に活動できるよう支援する。	生徒会	本部会が先頭に立ち、文化祭等の計画・運営を、安易に教職員に頼る事なく主体的に実行する事ができた。また、より良い生徒会活動のために「報告・連絡・相談」を徹底し、風通しの良い生徒会運営をする事ができた。	B	コロナ禍以前の活動に全てにおいて戻し、制約のない中で生徒会活動を実施できたのは、今年度が初めてであった。よって、具体的なイメージを持たない生徒たちもいた。今までのやり方を変える良い機会でもあるので、試行錯誤しながら、生徒会活動を進めたい。	
			思いやりを持って他者と関わったり情報を発信したり出来る心の豊かさを育てる。	各学年	日常生活行事を通じて、心の豊かさは育っているがトラブルは皆無ではないので、その都度丁寧に対応するように努めた。	B	生徒同士の意思疎通でのトラブルやSNSなど教員が分からないところでのトラブルがある。情報発信やツールの使い方も含め適切な指導が必要である。	
			生徒の状況をきめ細やかに把握して対処する。また、生徒の人権意識の向上を図る。	各学年 生徒相談	精神的に弱い生徒が増えている状況で、職員間で情報を共有し生徒の抱えている問題を多角的な視点で捉えるように心掛け、必要部署と連携して対応することができた。人権に関する映画鑑賞を実施し、生徒の人権意識の向上を図った。	A	SOSを出せない生徒の状況を把握するのが課題である。生徒の人権意識の向上を図るために、各教科の授業実践との連携や人権教育を継続して実施していきたい。	
学校運営	安心安全な学校		自他を大切にし、主体的に安心・安全・健康的な生活を送ることが出来る生徒を育む。	各学年	概ね安心・安全で健康的な学校生活を送れている。	B	心身の不調などで体調を崩すなど、健康的な生活が送れていない生徒が少なからずいる。どうケアしていくかが課題である。	B
			いじめの無い、安心安全な学校生活を過ごせるよう関係部署との連携した対応を行う。	生徒指導	年2回の学校生活アンケートと7月保護者懇談会、10月、12月面談週間を実施した。各学年、係と状況が共有でき生徒の実態把握を行うことができた。	B	今年度同様のアンケート、面談等を通して、また係、学年と連携しながら引き続き生徒の現状把握に努める。	
			不登校や特別支援の必要な生徒へ対応すると共に、職員への理解を深めるために職員研修を実施する。	生徒相談	必要に応じて、SCやSSWとの連携を図り生徒支援に取り組んでいる。SSWによる研修会を実施した。	B	オンライン授業等、様々な生徒支援のあり方が問われ、検討することが多くなってきた。本人や家庭との対話や教職員、外部機関と連携しながら対応していきたい。	
	その他		非違行為防止に対する意識を高めるため職員研修を行う。	コンプライアンス委員会	職員会にて、非違行為防止についての研修を複数回実施し、職員の意識の向上を図った。一人一人が自分のこととして捉えることができた。	B	何でも話せる雰囲気作り、職場環境を心掛け、非違行為防止に向けた同僚性をさらに高めていきたい。	B
			3つの方針を通して、本校のあるべき姿を明確にし、魅力ある学校作りを推進する。	ビジョン委員会	多様化の時代に向けて、自立・協働・創造の資質と、人権感覚を持った人間を育成していく(スクールミッション)ために、3つの方針の共通認識のもと、魅力ある学校作りに向けて職員一同、取り組むことができた。	A	「県立高校の特色化に関する方針」に係る4つの視点を、本校の教育活動に照らし合わせて、それぞれの分野に「岳陽らしさ」を盛り込んでいけるよう推進したい。	
			職員相互に授業見学をし、ICT(BYODを含む)の活用方法を研究する。	教務係	授業見学は延べ32名と減少したが、ほぼ全ての教員がICTの授業への活用をしており、活用方法は浸透している。	B	授業におけるタブレットの活用はあまりできておらず、タブレットの活用の研究が必要である。	

達成度 100%:A 80%:B 50%:C 30%:D 20%未満:E

評価は職員による5段階評価の平均値より算出。

4.5以上:A 4.0以上:B 3.0以上:C 2.5以上:D 2.0未満:E